

～十郷用水の歴史とパイプライン化事業～

坂井市の米作りに使う水の多くは、丸岡町にある九頭竜川の鳴鹿大堰から取り入れています。鳴鹿大堰から取り入れた水は十郷用水、高椋用水、新江用水、春江北部用水など多くの水路に分かれて水田まで運ばれています。坂井平野を流れる水路の中で最も古い水路が十郷用水路です。

十郷用水のはじまりと鹿の伝説

十郷用水は平安時代（西暦1000年頃）に造られたとされています。当時、坂井平野では、水が少なく農民は米作りに困っていました。そこで神主さんたちが、水をもとめて春日神社にお祈りをしたところ、山から鹿があらわれ、九頭竜川の岸で3度鳴いてから西に向かって歩いて行きました。その後、鹿が鳴いたところに堰をつくり、歩いた道すじどおりに水路を掘ると、水はうまく流れてあたり一面の水田をうるおし豊かな土地になったといわれています。



十郷用水は千年もの歴史があるんだね。



十郷用水の由来

坂井平野は平安時代、奈良興福寺が持つ水田で河口荘と呼ばれていました。この河口荘は、兵庫、新庄など10の郷に分かれており、十郷用水の名前は、この10の郷に水を送るための水路として呼ばれるようになりました。

十郷用水を使うためのルール

広大な坂井平野を支える十郷用水ですが、昔は、雨が降らず水が少なくなると、農民同士が水の取り合いになりあちこちで争いがおこる事もありました。そこで争いをさけるために、水の分け方を細かく定めたといわれています。



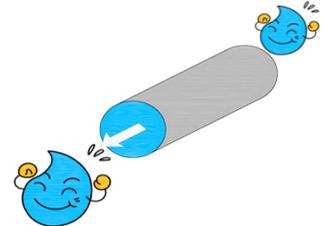
十郷用水

これからの農業用水路

今までの農業用水路は、コンクリートで底と側面を固めたもので、それが古くなってしまいました。そこで、「これまでより良いものに作りかえましょう」と、水路をパイプラインにすることになりました。パイプラインとは、地中にパイプを埋めて、その中を水が流れるようにしたものです。これからの坂井平野における新しい農業用水路のかたちです。



パイプラインにすると、どんな良いことがあるのかしら？



まず、パイプラインは水が地中を流れるので、鳴鹿大堰で取り入れた九頭竜川のきれいな水が、そのまま水田に届きます。きれいな水でお米を作ると、とてもおいしいお米ができます。

それから、パイプラインは水をむだなく水田まで運ぶことができます。これまでの水路は水漏れなどが多くありましたが、パイプラインのおかげで今まで水が十分に使えなかった水田や畑にも水を届けられるようになります。

また、パイプライン化になると人が水路へ転落することも無くなります。



工事は全国でも有数の規模で、パイプの直径は最大で3m50cmもあるんだって。



この資料に関するお問い合わせ先 九頭竜川下流農業水利事業所、坂井農林総合事務所
関連ホームページアドレス <http://www.maff.go.jp/hokuriku/kokuei/kuzuryu/>